２０２５年７月３１日
ＥＩＮ　エネルギー情報ネットワーク

ＬＰガスＣＰ速報（２０２５年８月積）

１．８月積みサウジアラムコＬＰガスＣＰ（7 月 31 日発表）
プロパン**５２０**㌦（前月比－５５㌦）
ブタン　**４９０**㌦（前月比－５５㌦）

① ＬＰガススポット市況等

ＬＰガスは不需要期、極東の猛暑で需要は低迷した。中東市場は第 4 週ＣＦＲ極東着がプロパン 510 ㌦、ブタン 520 ㌦、フレートが上昇するなか、大幅なディスカウント市況でＦＯＢ市場は閑散となった。米国産が堅調に入着するようになった第 3 週以降、ＣＰ先物市況は軟化、インド勢の 2026 年ＦＯＢ契約の商談シーズンでＣＰ価格は低く抑えられるとの観測もみられた。中国ＰＤＨ稼働率は 5 月の 55%から 7 月は 66%まで回復、プロパン市況軟化でマージンも改善、石化需要がどこまで下支えできるか注目される。

米国市場をみると、不需要期を迎えても、需要は堅調、関税問題で中国向けが減少したが、輸出は回復傾向（グラフ③参照）。供給は、天然ガス増産で潤沢、全米プロパン在庫は積み上げが進み、在庫水準は 5 年平均レンジの最上位まで上昇した。モンベルビュープロパンスポット価格は、原油市況に連れ高、第 2 週末 386 ㌦まで上げたが、翌週は原油市況とともに軟化 357 ㌦まで下げた。月間平均では前月比 20 ㌦反落の 370 ㌦／㌧どころ（グラフ①参照）。

フレート市況は堅調に推移した。北米の傭船需要が増加、第 3 週には成約ラッシュで船腹需給がタイト化し市況を押し上げた。米国～極東は第 3 週には 140 ㌦まで上昇した。中東市場も米国市況に引きずられ上昇、第 3 週には中東産ガス国のアクセプタンスが出そろい成約が進み需給が引き締まった。期近高期先安のフレート市況では船主が長距離航路を志向、インド向けでは 90 ㌦に迫る水準。

ナフサ市況は２ヶ月ぶりの反落、月間平均は前月比 11 ㌦下落の 582 ㌦／㌧どころ。原油市況、米国エタンの輸出回復傾向、ブタン市況軟化、中国石化需要の動向に左右される。

バンカーオイルをみると、Ｃ重油とガスオイルで格差が拡大した。シンガポールＩＦＯ380 は２か月ぶり反落、月間平均で前月比 36 ㌦下落の 420 ㌦どころ、ＬＳＭＧＯ（低硫黄マリンガスオイル）は２か月連続の上昇、前月比 36 ㌦上げの 685 ㌦どころ、世界的な留出油高を受けて、ガスオイル・Ｃ重油との格差は 265 ㌦に広がった。

７月ＣＰは前年同月比プロパン 70 ㌦、同ブタン 80 ㌦の下落。原油（アラビアン・ライト）熱量等価換算（下記参照）では、前月に比べプロパン 11、ブタン 11 ポイント下落、前年同月比ではプロパン 4 ポイント、ブタン 2 ポイント高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート（中東―日本）	80	80	80	90	82.5
ＣＰ先物指標：Ｐ	560	560	540	525	546
ＣＰ先物指標：Ｂ	535	540	520	505	525

② 原油市況等

７月の原油市況は、ＷＴＩ65～70 ㌦のレンジ相場で推移した。イスラエルはガザ、シリアなどで攻撃を続け、中東情勢は不安定だが、イランとの停戦合意以降、地政学リスクプレミアムは縮小した。トランプ関税を巡る貿易交渉は、日本、ＥＵ、韓国と合意、中国との交渉も延長されるとみられ、金融市場はリスクオンとなった。一方、ロシアに対し、ウクライナとの停戦合意期限を前倒して 2 次関税の賦課など制裁強化が示され、ロシア産石油の供給懸念、2 次関税を受けるインドの製油所稼働率の低下など、需給タイト感から原油、石油製品市況が上昇した。市場は、シェア重視に転じたＯＰＥＣプラスの増産政策を注視、先物市場では、期近 2 限月の逆ザヤがやや縮小したが、タイトな状況を示し、アルゴリズム取引を行う商品投資顧問業者のロングポジションが最大限に膨らんでいる。

○７月積みアラビアン・ライト（7 月 1～30 日までの想定）は 72.16 ㌦（前月比＋1.44 ㌦）
熱量等価ＡＬ100%　プロパン 591.64 ㌦／㌧　ブタン 583.52 ㌦／㌧
ＡＬ比　プロパン 87.89%　ブタン 83.97%

＊上記ＡＬはＥＩＮ推計、確定値は後日Ｗｅｂサイトでご確認ください。

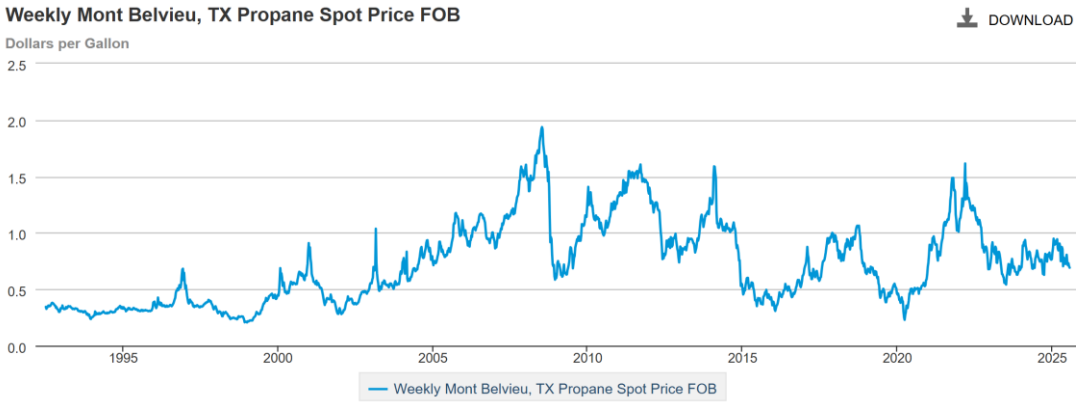
２．２０２５年８月ＬＰガス仕切（**ＣＰ・ＭＢコスト変動分**）への影響

適用為替	ＴＴＳ	Ｐ円建ＣＦＲ	Ｂ円建ＣＦＲ	Ｐ前月比	Ｂ前月比
７月月間	147.74	88,300	86,300	－3,400	－4,200

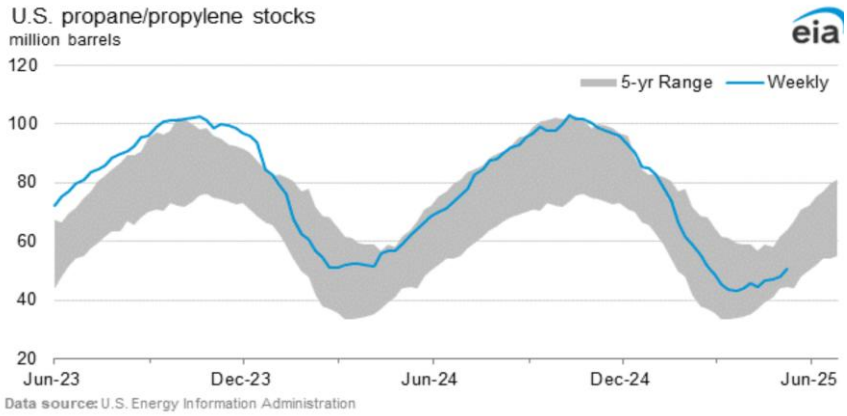
＊ＴＴＳ平均等について、上記は７月 1～31 日までのＴＴＳ平均。ＣＰは前月・当月 50%案分。プロパンのＭＢ合成比率はＣＰ70%、ＭＢ30%で算定。ＣＦＲコストは中東・北米フレートを含むＣＦＲコストを表示。ＣＦＲコストには北米の基地経費等も含まれ、各社で異なる。

なお、上記ＭＢは７月 29 日までの価格を基にＥＩＮで試算（370 ﾄﾞﾙ/ﾄﾝ）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はＷｅｂサイトを参照。

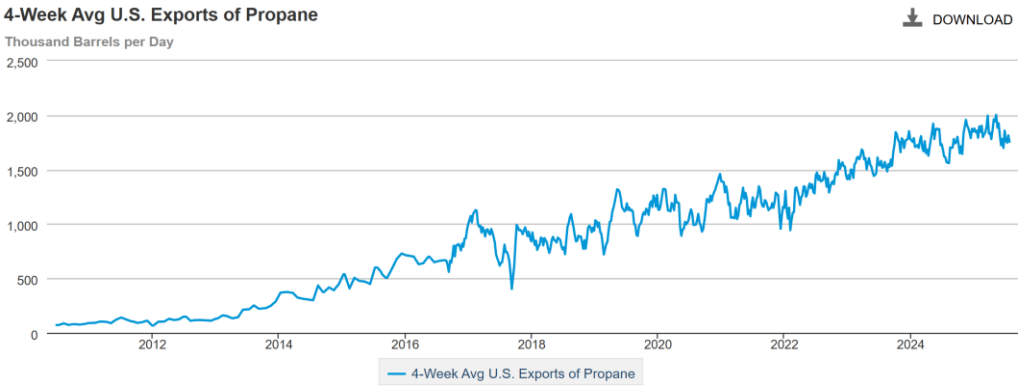
① 米国プロパンスポット価格推移



② 米プロパン在庫推移



③ 米プロパン輸出量推移



出典：EIA